



みなさんは、「ちょうちょう」という唱歌を、聞いたことがありますか?

ドイツの古い童謡をモチーフに、日本語の歌詞がつけられたこの曲は、何度か歌詞を改変しながら現在に至ります。

「ちょうちょう」(1947年改作版)

ちょうちょう ちょうちょう  
菜の葉にとまれ 菜の葉にあいたら  
桜にとまれ  
桜の花の 花から花へ  
とまれよ遊べ 遊べよとまれ

さて、この歌詞に出てくる「ちょうちょう」は、どの種類のチョウなのでしょう? サクラの咲く春に出てくるから「モンシロチョウ」?それとも、大型の「アゲハチョウ」? チョウの口吻(ストローのような口)は、



モンシロチョウのペア



ギフチョウ

細長い筒状の花(タンポポやシロツメクサ、アザミなど)の蜜を吸うのに適しています。サクラの形状の花は、吸蜜しにくいのです。春先によくサクラに来るのは、ハナアブやミツバチ、メジロ、ヒヨドリなど。これらは花粉を集めたり、おしべごとかじったりしています。

サクラの花に吸蜜に来るチョウは、ギフチョウやスジグロシロチョウなど数種類に限られるようです。モンシロチョウはまだ見たことがないのですが...



ギフチョウ



ヒヨドリ

ちなみに「菜の葉にとまれ」という表現は、モンシロチョウの仲間が、産卵のためにアブラナ科の植物の葉にとまることをさしているのだと思われます。

(文責：玉村かおり)